



Title	再び、「～たばかり」について：意味論的観点から
Author(s)	中村, 重穂; Nakamura, Shigeho
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 3, 30-54
Issue Date	1999-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45576
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC003_004.pdf



再び、「～たばかり」について

－意味論的観点から－

中 村 重 穂

要 旨

本稿は、筆者が Nakamura (1990) に於いて分析した日本語のAspect表現「～たところ」「～たばかり」の意義素のうち、後者の意義素を構成する意義特徴を國廣 (1982) の方法論によって再検討したものである。

その結果、「～たばかり」の意義素には、Nakamura (1990) で析出された〈時間的直後〉と〈状態継続〉という二つの意義特徴の他に、今回の分析によって新たに〈否定的評価の後続〉という第三の意義特徴があることが明らかになった。但し、この意義特徴の〈否定的〉という表現の内包には「意義素の外縁」と考えられる要素も含まれており、なお検討の可能性が残されている。

また、今回の分析のために収集した資料から、「～たばかり」は、その文例の約70%が「～たばかりの[名詞]」という名詞修飾構造になっていること、及び名詞修飾構造を除いた用例中約20%が後続主節と逆接関係になっていることが判明し、この表現を教材化する場合は、これらの構造的特徴にも留意する必要があることを述べた。

〔キーワード〕「～たばかり」、意義素、意義特徴、否定的評価の後続、意義素の外縁

1. 問題の所在

日本語のAspect表現「～たところ」及び「～たばかり」¹⁾は、日本語教材では1980年代までは共に時間的「直後」の表現として扱われてきた。これに関して、筆者は、Nakamura (1990: 以下前稿と略) で國廣 (1982) の方法論によって両表現を意味論的に分析し、その意義素を構成する意義特徴として、「～たところ」の場合は〈時間的直後〉、「～たばかり」の場合は①〈時間的直後〉及び②前記①に於ける動作・作用が完結した直後に

生じた状態が何らかの形で継続しているという〈状態継続〉の二つを明らかにした。

その後、この結論に対し、國廣哲彌氏²⁾から、「否定的評価が後続する」ということが「～たばかり」の意義素に含まれるのではないか、というご指摘を頂戴した。これは、前稿の分析対象4用例中3用例の「～たばかり」に否定的評価が後続することに着目されてのご指摘であった。そこで、本稿ではこの國廣氏のご指摘に答えるべく、再度「～たばかり」を意味論的に分析し、その意義素を考察することを目的とする。

2. 先行研究の概観

本章での先行研究は、前稿で既述のものは省略し、前稿以後に現れたものを中心として、これらを教材と研究文献に分けて見ることにする。

2.1 日本語教材に於ける「～たところ」と「～たばかり」

今回は以下の6種の教材を参看した。説明は6以外は英語である。

1. アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (1987) “An Introduction to Advanced Spoken Japanese (IASJ)” 凡人社
2. 能登博義 (1992) “Communicating in Japanese (CJ)” 創拓社
3. 東京日本語学校 (1993) 『新現代日本語Ⅱ・文法解説』東京日本語学校
4. 筑波ランゲージグループ (1994) “Situational Functional Japanese (SFJ 2nd ed.)” 凡人社
5. 三浦・マグロイン (1994) “An Integrated Approach to Intermediate Japanese (IAIJ)” The Japan Times
6. 羽田野洋子・倉八順子 (1995) 『日本語の表現技術－読解と作文－中級』古今書院

これらのうち、2～4と6は両者を指導項目化しているが、1は「～たところ」のみ、5は「～たばかり」のみで「～たところ」は英訳だけである。概括的に言うと、これらの説明では、「～たばかり」は概ね英語の “to have just taken place/done/finished” と対応され、「～たところ」もほぼ同様に “to have just taken place/done/happened” として捉えられており、6でも前者は「直後を表す」、後者は「はじめた直後」と書かれているのみで、違いは分明にされていない。その中で2のみは両者の違いにある程

度踏み込んでおり、「～たところ」を“Plain perfect”とし、「～たばかり」については“…the speaker feels almost no time has passed since the action expressed by the verb was completed, …た＋ところだ, however, maintains a considerable degree of objectivity in expressing the time span between action and utterance”としている。

また、4 は接続形式に着目し、“[V-ta] ばかりなので／ばかりで is used to indicate that a situation obtains because the action [V-ta] took place only recently.”と説明した上で、「1. 日本に来たばかりなので日本語がよくわかりません。2. 日本語の勉強を始めたばかりで、まだよくわかりません。」という、否定形が後続する二例を提示している。同様の例文は、5に「日本へ行ったばかりの時は、日本語が分からなくて困りました。」が、6に「日本に来たばかりなので、まだ日本語が全然わからない。」があるが、いずれも否定的評価が後続することには意を払っていない。

次節では研究文献でのこれらの表現の扱いを見しておくことにする。

2.2 研究文献に於ける「～たところ」と「～たばかり」

まず、酒入他(1991:161-162)は、この「～たところ」と「～たばかり」の違いについて、前者を時間的直後(時間的直後を中立的に伝える)、後者を時間的直後+心理的直後(心理的直後感とそれに伴う感概を伝える)と捉え、前稿の諸文献よりもさらに踏み込んだ解釈を行っている。

寺村(1984:292/1991:179)は、「～たところ」を「～シタ(已然)+トコロダ(そういう段階にある、という状況の説明)」と捉え、「～たばかり」については「叙述対象の時点と発話時点とのあいだに僅かな時間しか経過していないことを暗示する点が特徴である」と述べている。

さらに、川越(1995:209)は、両者とも「できごとの起こった直後を示す」とした上で、「～たところ」は「その時点を示すことに重点があり」、「～たばかり」は「直後の状態として予想される事態をつねに念頭に置いた表現である」と述べている。

その他、日本語教育誤用例研究会(1997:197)では、「～たところ」を「その動詞の表すことがらが実現、成立、あるいは完了した時点から、あまり時間がたっていない局面にあることを示す表現」とし、「～たばかり」は、「同じく時間がたっていないことを示すが、その動詞の表す事柄の成立時、あるいは完了時の状態から、次の状態・行動に移れるほど時間がた

っていないという話し手の気持ちを表す表現である」という、これまでの諸文献中最も詳しいと言ってよい説明がなされている。最後に、辞書であるがグループ・ジャマシイ（1998：331/494）では、「～たところ」については「動作・変化がその『直後』の段階にあることを表す」とし、「～たばかり」については「動作が完了してから、時間があまりたっていないことを表す。動作の直後でなくても、…話し手にとって時間がたっていないと感じる場合にも使える」と記している。

前稿から9年が経過したにもかかわらず、教材が一部を除き、未だに両者の違いを明確化していない点には、問題を感じずにはいられないが、これに対し、研究文献の方は両者の意味の解釈に以前より踏み込んでおり、特に川越と日本語教育誤用研究会のものは「直後の状態」を「～たばかり」の意味の一つとして析出した点で筆者の結論に近づいている。

加えて、これらいずれもが、「～たばかり」に否定的評価の含意があることを示唆している点は注目に値する。酒入他（1991：162）は、「『飲んだばかりです』と言われると、『だからもう飲めない』とか『飲みたくない』とかいった話者の思いが感じられる」と述べており、寺村（1991：180）は、「いまホテルに着いたばかりです。のような使い方のバカリにも、暗に、〈まだ着いてから僅かしか時間がたっていない（から…するのはむりだ）〉という意味がこめられていることが多い」と説明している。さらに、川越（1995：207）も「いいわね、この間、九州にいらしたばかりで、今度は北海道なの？」という例文を『『直後』の状況として期待に反するものだという意味合いになる」と解しており、いずれも何らかの否定的評価が含意されていることを示している。

しかし、これらは全て単文レベルの例をもとにそこから類推される含意のみについて論じられており、文脈内での否定的評価の後続の有無については未解明である点で、否定的評価の後続を「～たばかり」の意義素と認定し得るかどうかに関してはなお考究の余地を残すものとなっている。

そこで、以下では「～たばかり」の文を、それを含む文脈に於いて観察することによってこのような否定的表現/内容の後続の有無について具体的な用例を元に分析を行う。

3. 分析の方法と対象

本章では、まず、分析の基礎資料の抽出について簡単に説明しておく。

3.1 基礎資料の抽出の手順

本稿でも前稿同様、國廣（1982）による意味分析の方法を用いた。今回利用する基礎資料の抽出手続きは以下の通りである。

- ①小説、エッセイ、評論、評伝、ルポ、雑誌からなる計70冊の文献から「～たところ」77例と「～たばかり」224例の用例を抽出した。
- ②用例中の「ところ」と「ばかり」の部分を両者併記の形（[ところ ばかり]）で二者択一式の質問項目化し、日本人インフォーマント3名（全員30代の東京話者）にその適合性について（両者とも適合あるいは不適合の場合も含め）内省による判定を依頼した。但し、うち2例は固有名詞（書物の表題に「～たばかり」を含む）であったため、除外した。
- ③上記②の結果から、インフォーマント3名が全員「～たばかり」の方が適合すると判定した用例141例を抽出した。
- ④上記141例中102例は「～たばかりの[名詞]」（「～たばかりという[名詞]」1例を含む）の形であったため、この名詞修飾化が意味に影響を与える可能性及び前稿の用例（名詞修飾型を含まない）との整合性を勘案し、この型の用例は今回の分析の対象から除外した。
- ⑤上述の、両者が paradigmatic に互換可能な文脈の意味分野を持つ用例を内省的判定法により排除した残り39例を基礎資料として確定した。

3.2 分析の方法

分析の方法としては、既に3.1で述べたように、まず対照的作業原則（國廣1982：241-243）に則って対照的文脈を利用して「～たばかり」の適合性を判定し、両者が paradigmatic に互換可能な文脈の意味分野を持つ用例を排除した。「～たところ」については、原文が「～たところ」でもインフォーマント全員が「～たばかり」と判定するものが出現する場合を想定したが、今回の調査ではこのケースは出現しなかったため、「～たばかり」の39用例が確定した段階で「～たところ」の用例は除外した。

その上で、抽出した39例について「『～たばかり』には何らかの否定的評価が後続する」という仮説を立て、呼応の作業原則（國廣1982：202）により syntagmatic に否定的評価が後続するかどうかを検討した。その際、単文レベルで判定が困難な用例については前後の文脈からも検討を行った。

3.3 基礎資料となる用例

以下に分析の対象とした用例を示す。()内の略号は書名、数字は頁を表す。正式書名は稿末に掲載し、番号は調査票の通し番号を使用した。

なお、調査票には「～たばかり」を含む文を文脈レベル(概ね段落単位、但し文の主題や対象に応じて前後の段落も含む)で記載したが、本稿では紙数の制約上「～たばかり」を含む文を中心にした形で記載し、分析の必要に応じて前後の文脈を提示することとする。

9. その頃、万紀子は美術大学に入学したばかりだったが、一年も経たないうちに家を出て、学校の近くのアパートに移っていった。(瑠・97)
10. いつもの店に違いなかった。昨日も皆でそこに集まったばかりだというのに、また性懲りもなく酒を飲んでいるのだろうか。(瑠・103)
24. 貧血で倒れたことなどかつて一度もなかった。入社したばかりで緊張が続いていた上に、一時間以上もラッシュにもまれることに慣れていなかったからだろうと思っている。(彼・124)
50. その長崎に住む「中田」から、十日ほど前の早朝、電話があった。女学生時代のクラスメートの、死を告げる電話である。電話をもらった前日、息をひきとったという。去年(1988年)の九月、長崎に帰郷した折りに見舞った、クラスメートである。病院への見舞いも「中田」が連れていってくれた。その時クラスメートは、手術したばかりだった。色白のほほに血の気がのぼり、元気そうにみえた。来年はまたみんなで、平和祈念祭にいきましょう、と私はいった。彼女はにこにこ笑って、行こうね、といった。(昭・95)
55. 午前十時を少しまわったばかりだというのに、関東美術センターの事務室は、制作局よりはるかに活気に満ちていた。総じて美術さんたちの出勤時間は制作の連中よりも早い。(ト・80)
65. 「いえ、それは岡村さんにもお話ししたんですが、二月ばかり前に一人でフラッとやって来たんです。雇ってくれていうから、どういう商売なのか判ってんのかって聞くと、友達から聞いて承知してるっていうもんでね、可愛い顔立ちしてるから、これはいいかなって思いまして。ちょうどその三日ほど前にタイの女の子が二人揃って辞めたばかりで、こっちも手が無くて弱ってたところでしたしね」(湘・170)
67. うちのビデオは去年買い替えたばかりで、コード予約ができるシステムのはずなのに、新聞にリモコン押しつけても何の反応もないんだ。壊

- れてるのかと思った。 (湘・191)
70. 当時の私は酒の飲み方を覚えたばかりで飲み方も知らなかったので、例えば内田氏を招待して石狩鍋などでご馳走したときにたまたまあった高価なブランデーを出し、さすがに内田氏に「ブランデーは合いませんね」と言われてしまったことがある。 (北・158)
76. 今度は孫三郎が児島に言った。
「もう一度絵を買いに行って下さらんか」
帰国したばかりであり、児島もさすがに腰を上げるわけには行かない。 (わ・176)
80. だが、論争は始まったばかりであった。Q自身も、自分の加撃が相手の表面をすべっただけで、まだほとんどなんの致命傷もあたえていないことは承知していた。 (Q・112)
95. ぼくがフォーク評論家としてデビューした七一年秋頃は、拓郎はデビューしたばかりでまだ売れていなかったし、陽水はまだデビューさえしていなかった。 (新・79)
111. 我々は結婚したばかりで、自慢するわけじゃないけど、ギネス・ブックに載ってもおかしくないくらい貧乏だった。 (カ・156)
127. 疲れの癒えぬ、つらいきれぎれの眠りのなかへ、スピーカーの音がひびきこんでくる。眠ったばかりなのに、夜はしらしら明けているらしい。 (横・99)
133. しかも、その頃谷崎は七十四歳で、その十月に狭心症の発作を起し、東大病院に入院し、十二月に退院したばかりであったのに、わざわざ熱海市伊豆山の邸から上京してきたということであった。 (青・5)
145. 理恵は外国通信社に入社したばかりで、新しい仕事のプレッシャーがあった。アレックスと離れて暮らすことからくる不安と寂しさもあった。 (バイ・17)
149. ここはいま大きな大学になっていますが、その当時はできたばかりで、大学院しかなかった。ぼくはその二期生です。 (精・57)
150. ー学生はどのくらいいるんですか。
それがたった十名なんですよ。できたばかりだったから、学生より先生の方が数が多かった。だから、学生は大切にされて、勉学の環境は実に恵まれていました。 (精・58)
151. ぼくの場合、はじめの一年間リサーチ・アシスタント、あとの四年間

ティーチング・アシスタントをしました。といっても、UCSDの場合、できたばかりで、まだ学部の学生をとっていなかったから、ティーチング・アシスタントといっても名ばかりで、実際には何もなかったんです。(精・68)

153. UCSDは、いまは非常によくはなったけど、当時はできたばかりで、知っている人が少ないローカル大学です。ハーバードとか、MITとか、カルテック（カリフォルニア工科大学）といった世界的研究の中心地から見たら、はずれもいいところなんです。(精・118)

165. 「どちらにお行きになるのですか。フィレンツェですか。きょうは国鉄のシオペロで夜の九時まで列車は動きませんよ。もう一泊なさったらいかがですか」(引用者註：シオペロ＝ストライキ)

「シオペロ、おとといやったばかりじゃないですか」

「おとといのシオペロは政府に反対するため、きょうのシオペロは国鉄職員の待遇改善を求めてのものですよ」

やれやれ。理由はなんであれ困ったことだ。(イ・94)

169. 「シニョーラ、落ちついて。このハンカチで涙を拭きなさい。まだ事件が起きたばかりで、妹さんもあなたも混乱しています。子どもたちだってショックから立ち直ってないでしょう。そんな状態で将来のことをすぐに決めるのは無理です。もう少し時間がたってから、落ちついてから、もう一度妹さんとゆっくり話し合えばいいじゃないですか」

(イ・165)

174. 大学を出てサラリーマンになったばかりで、生意気な盛りのころの話である。取引銀行の人と事務的処理の方法について意見が異なり、話していくうちに興奮してきて激しい議論になった。(バ・205)

179. ところが、残念ながら日本美術史の分野においては、ジェンダーの視点に立脚した研究ははじまったばかりであり、また、ジェンダーの観点からの「美術」の分析を受け入れがたく感じる人々が依然多いように見受けられる。(日・13)

180. 美術作品の中に描かれた他者は、身分や階級、人種や民族など、歴史的・地理的に実践されてきた人間社会の分断に対応するかたちで創造されている。そのことに、文化批評の理論を考える思想家や、歴史、美術史を学び、研究するものたちが気づきはじめてすでに二〇年以上月日が経過した。しかし日本美術の見直しはまだ、はじまったばかりだといっ

てよいだろう。 (日・99)

181. 黒田は東京美術学校の教授として洋画壇の頂点にあった。また、太田はフランスから帰国したばかりで、後期印象派のスタイルを学んできた画家として批評家にも注目されていた。 (日・194)

186. 「どうやらおめえにバイクをころがす資格はねえな。オイルがカラだ。こりゃエンジンがオシャカかも知れねえぞ」

「あれえ、オイルならこの間、入れたばかりなんだけど」 (プ・214)

191. 七歳のアルベール君は、キャンプにきたばかりだった。素直な子で、育ちのよさが分かる。反政府軍が進攻してきた日、役人の父親に連れられ、ルワンダ南部から家族全員で満員のトラックに乗り込んだ。途中でトイレ停車があり、道路わきの茂みでみんなとおしっこした。終わって道路に戻ったら、トラックは行ってしまっていた。 (食・104)

197. 妻の昌子さんとは一年前に結婚したばかりで、ナイロビの下町の小さなアパートに住んでいる。その昌子さんが日本に里帰り中、むかし銃撃で負傷した足の傷口が開いてしまった。食事の支度もできなくなったという話を聞いて、「それなら家に来れば」と声をかけた。彼は片手にキーボードをかかえ、片手にネコを抱いてやってきた。 (寝・112)

199. パチのキャンプは三週間前にできたばかりだった。オーストラリア人の医師 (43) によると、現在二万五千人が収容されており、毎日八百人前後が流入してきているという。

医療テントをのぞいた。地面にじかに敷かれたビニールシートの上に、骨と皮だけの人間がずらりと寝かされていた。ベッドがないのだ。

子どもと年寄りがほとんどで、全員がリングルの点滴を受けている。

(寝・140)

207. 採用されることになった。いなかからでてきたばかりだったので「使いやすい」と経営者におもわれたのであろう。朝九時から五時半まで。賃金は七千円。職安の紹介状にはそう書かれていたが、面接では場合によっては八時まででも、そして賃金は、二ヶ月の試用期間中は六千円、といわれた。それでもいいことにした。 (ほ・36)

213. ある日、農協にいて、昔の鉱害の記録をみせてもらっていた。なにげなく、交通が不便で困っていることを口にだすと、

「わしのとこに来んですか」

と三五、六歳の職員がいてくれたのだった。井田裕夫さんだった。

農協からの細い道を歩いて彼の家に向かうときでも、ぼくは半信半疑だった。彼とはその日はじめて会ったばかりである。まったくの初対面の男を、井田さんは居候にしたのである。(ぼ・94-95)

235. その日本人の知人は少し当惑して「いや、西部は着いたばかりで喋るのを躊躇しているだけで、別に変な奴ではないんだよ、新古典派経済学のこともよく知っているんだ」と弁護してくれます——正統派の経済学を知っているということが一種の身分証明らしいのです——。

(蟹・107)

241. 居間のテレビをつけたまま、お風呂から戻ってくるとテレビが消えている。私のつけっぱなしでおいだテレビを消して歩くような小姑は、私のところには、人間でもネコでもいるはずはない。あわてて、リモコンを押したが手応えがまるでない。

ネコのやつが暴れ回って、コンセントを抜いてしまうことはよくあることである。前には、線をかじってしまったばかりもいた。よく感電しなかったものだ。でも、今日はコンセントも線もしっかりとしている。

「このテレビ買ったばかりだよ」

裏返して、わかる範囲の線は皆しっかりと固定されているのを確かめた。

(哲・137)

248. 私が大学へ入ったばかりで、口紅のひき方もしらなかった頃、幼稚園からエスカレーター式に進み有名女子大の英文科に入った彼女は、週に二回、赤坂プリンス・ホテルの美容室にトリートメントに通うのを習慣としていた、といったらほぼ想像がつくだろう。(花・106)

254. 緊急出動センター中の電話が鳴りっぱなしで、全隊員が対応に任せてこ舞いをしているのだ。俺のデスクの電話も、切ったばかりなのに、またすぐ鳴り出していた。

「どういうことだ、こりゃあ」

俺があっけにとられていると、緊急出動隊の隊長である実相寺が部屋に駆け込んで来た。(東・59-60)

261. 突っぱねようと思ったのだが、ハッセル・ブラッドの新しいカメラを購入したばかりで、事務所にその代金のローンを組んでもらって間もない立場としては、断るわけにもいかなかった。(東・139)

275. 「手前エコの野郎、サードのADがカメラハ出動たあ、いい度胸じゃねえか。遅刻の理由を言ってみろ」

「あの、バスケットシューズが昨日買ったばかりだったんで、出がけに紐を通してたら、ついついこんな時間になっちゃって」 (ガ・14)

287. 「釣りはどうです？」

「ここんところ、とんと御無沙汰。何せ『ウルトラマン』と違って、俺は貧乏くじ。もう、昼メロよろめきでどっと客が来る時代じゃないんだよ。

『背信の告白』も打ちきりで、秋から『紫野ゆき』ってのは始めるんだけど、意気あがらねえや。ライターの神原浩一がいまひとつでね。そうだ、佐治田貸してくれよ」

「貸すも何も、僕だっけつき合ったばかりだから」 (星・147)

289. 「終りだよ、終り。視聴率でいい気になってたって、あんな新企画じゃ先が知れてるよ。第一、番組の内容を制作サイドが考えるんじゃないかと、商品化第一の玩具屋がリードしてくんじゃ本末転倒だぜ。円ちゃんは自分とこのプロと局の間で気の毒な板ばさみだから、俺も同情はするが、新シリーズにはついていけないな。他に行くつもりだよ。平ちゃんは映画部に来たばかりだし、円ちゃんに拾われた身だからしばらくつき合っ、せめて妙な方向にいくのを食いとめるんだな」

「そんなこと……」 (星・183)

以上が今回の分析の対象とする39例である。これらの用例は、以下の分析に於いても必要に応じて（一部は部分的に）引用することにする。

4. 分析

4.1 分析(1)－否定形あるいは否定的表現・内容の後続－

3.2で立てた仮説に基づいて39例を見てみると、70、76、80、95、149、151、248の7例には「～たばかり」の後続節または後続文に否定表現＝文型としての否定形が存在し、話者自身あるいは話題の人/事物に関する否定的評価を表していることが明らかである。（以下、用例の下線は全て中村による。）

70. 当時の私は酒の飲み方を覚えたばかりで飲み方も知らなかった…

76. 帰国したばかりであり、兎島もさすがに腰を上げるわけには行かない。

80. …論争は始まったばかりであった。…まだほとんどなんの致命傷もあたえていないことは承知していた。

95. …拓郎はデビューしたばかりでまだ売れていなかったし、…

149. …その当時はできたばかりで、大学院しかなかった。

151. できたばかりで、まだ学部の学生をとっていなかったから、…

248. 私が大学へ入ったばかりで、口紅のひき方もしらなかった頃…

また、以下の7例については直示的な否定形ではないが、やはり話者自身あるいは話題の人／事物に関する否定的評価と認められる表現・内容が「～たばかり」に、以下のように後続している。

111. →…貧乏だった。

145. →プレッシャーがあった。…不安と寂しさもあった。

153. →知っている人が少ないローカル大学…。はずれもいいところ…

174. →生意気な盛り…

179. →受け入れがたく感じる人々が依然多い…

235. →躊躇している…

275. →ついついこんな時間になっちゃって

最後の275では、「ついつい」という副詞と「～ちゃって」が、生起した不本意な結果に対する主体の後悔・残念等の含意を表すことにより、遅刻という事態に対する話者の否定的評価が表されている。

さらに、以下4例は、直示的な文型としての否定形と、否定形ではないが否定的評価を示す表現・内容が共に後続しているケースである。

24. →緊張が続いていた+慣れていなかった

65. →手が無くて+弱ってた

169. →混乱しています+立ち直ってない

261. →事務所にその代金のローンを組んでもらって間もない立場+断るわけにもいかなかった。

最後の261では、本来「突っぱねようと思った」仕事を引き受けさせた要因として、「事務所にその代金のローンを組んでもらって間もない立場」はこのカメラマンにとって否定的評価と考えることが可能である。

また、上記以外の用例では165；

「シオペロ、おとといやったばかりじゃないですか」

という発話に於ける「～じゃないですか」は一構造的には直示的な否定詞「～ない」を含むが表現意図としては一非難の表現として機能し、シオペロに対する話者の否定的評価を表すものとなっている。

その他にこの系列に属すると判断されるものとして用例241；

「このテレビ買ったばかりだよ」

が挙げられる。これは、一見「～たばかり」の後続部分に否定的評価が存在しないように見え、むしろ先行文脈に「…手応えがまるでない」という否定形が存在することから、後の4.3の、文脈内の否定的評価の含意という事例と見られるかもしれない。しかし、ここでは、このテレビに関する発言の中の終助詞「よ」に着目したい。終助詞「よ」は、相手に対する疑問や非難の意図やなじる気持ちを有することから、この「よ」が「買ったばかり」の「リモコンを押したが手応えがまるでない」テレビに対する話者の否定的評価を表明するものと考えることができ、この用例241についても先の仮説が当てはまる。

ここまでの考察で以上20例に関しては前記仮説が妥当すると言い得る。

4.2 分析(2)－逆接関係による否定的評価の含意－

前節の諸用例に対し、構造上は同様に否定形が後続しながらも問題を含む用例として9及び199がある。199については次節で検討することとし、ここではまず9について考えてみたい。

この用例9；

その頃、万紀子は美術大学に入学したばかりだったが、一年も経たないうちに家を出て、学校の近くのアパートに移っていった。

では、「～たばかり」の節に「一年も経たないうちに」という否定形が後続するが、この隠れた主語は「時間／期間」であり、話題の人物（＝万紀子）に関する否定的評価ではない。

ここで、この9の統語構造に着目してみると、前節の20例では「～たばかり」を含む文／節と後続部分は概ね順接関係であったが、9では「…美術大学に入学したばかりだったが」と逆接の接続表現が用いられ、前述の副詞節を挟んで話題の人物に関する叙述が続く。この逆接関係を考えれば、後続の叙述の中に、「大学に入学したばかり」の人間が一年未満で自宅からアパートに移ること自体が通常は何か普通の行動ではない、あるいは期間が短すぎる等の否定的含意を読みとることができ、この9も直示的な否定形ではないが、「～たばかり」の後続部分に何らかの否定的評価が意図され含意されているものと解釈することができる。

この系列に属するものとして、用例186；

「あれえ、オイルならこの間、入れたばかりなんだけど」

も挙げられる。この186の発話にも「～けど」という逆接の接続表現が用

いられ、後半は省略されているが、オイル切れという事態に対する話者の当惑、不審等の否定的感情が含意されていると解釈でき、この186にも先の仮説が妥当すると言うことができる。

ところが、ここでさらに残り18例を見てみると、これらには「～たばかり…のに」で従属節を作る構造が以下の通り6例(10, 55, 67, 127, 133, 254)ある。

10. …昨日も皆でそこに集まったばかりだというのに、また性懲りもなく酒を飲んでいるのだろうか。
55. 午前十時を少しまわったばかりだというのに、関東美術センターの事務室は、制作局よりはるかに活気に満ちていた。総じて美術さんたちの出勤時間は制作の連中よりも早い。
67. うちのビデオは去年買い替えたばかりで、コード予約ができるシステムのはずなのに、新聞にリモコン押しつけても何の反応もないんだ。壊れてるのかと思った。
127. …眠ったばかりなのに、夜はしらしら明けているらしい。
133. しかも、その頃谷崎は七十四歳で、その十月に狭心症の発作を起し、東大病院に入院し、十二月に退院したばかりであったのに、わざわざ熱海市伊豆山の邸から上京してきたということであった。
254. …俺のデスクの電話も、切ったばかりなのに、またすぐ鳴り出していた。
「どういふことだ、こりゃあ」
俺があっけにとられていると、緊急出動隊の隊長である実相寺が部屋に駆け込んで来た。

接続助詞「のに」はその前件から当然帰結すべきだと考えられる事柄が実現しない場合に用いられる逆接表現であることを考えるなら、これらも後続節に否定的評価を含意するものと見ることができる。特に10, 67, 254では「のに」の後続節に否定形や話題の人/事物に関する話者の呆れ・当惑といった否定的感情を表す表現・内容が後続している。

10. →…のに、また性懲りもなく酒を飲んでいる…。
67. →…のに、…何の反応もない…。壊れてるのかと思った。
254. →…のに、またすぐ鳴り出していた。「どういふことだ、こりゃあ」
俺があっけにとられていると、…
その他には上の例ほど明瞭な否定的表現は見られないが、その含意は、

55. ⇔ (制作局デハコンナニ朝早クカラ出勤シテ仕事ハシテイナイ。)

127. ⇔ (モウ寝テイラレナイ/眠レナクナッテシマッタ。)

133. ⇔ (自宅デ静養シテイナイデ上京シテキテシマッタ。)

の様な否定的評価として解釈することが可能である。

また、接続助詞でなく接続詞により上記の前件－後件の配列が逆転している用例が180；

美術作品の中に描かれた他者は、身分や階級、人種や民族など、歴史的・地理的に実践されてきた人間社会の分断に対応するかたちで創造されている。そのことに、文化批評の理論を考える思想家や、歴史、美術史を学び、研究するものたちが気づきはじめてすでに二〇年以上月日が経過した。しかし日本美術の見直しはまだ、はじまったばかりだといってよいだろう。

である。ここでは、初めの二文で美術作品に於ける「他者」の描かれ方の問題化が語られ、続いて接続詞「しかし」によって日本美術の見直しの現況に関する評価が語られる。この接続関係から、美術作品に於ける「他者」問題の叙述の背後には、日本美術ではこの問題の検討がまだ充分な形で行われていない／遅れているといった著者の否定的評価が含まれていると読むことができ、以上見てきた逆接の接続表現を含む用例に関しては、前述の仮説は立証されたと言えることができる。

4.3 分析(3)－文脈に於ける否定的評価の含意－

残る10例は、前節までの29例と異なり、構造的な指標を見つけることが困難であるため、文脈から否定的な含意を考えていくことにする。

まず、先の用例199；

バチのキャンプは三週間前にできたばかりだった。オーストラリア人の医師(43)によると、現在二万五千人が収容されており、毎日八百人前後が流入してきているという。

医療テントをのぞいた。地面にじかに敷かれたビニールシートの上に、骨と皮だけの人間がずらりと寝かされていた。ベッドがないのだ。

子どもと年寄りがほとんどで、全員がリングルの点滴を受けている。を見ると、二番目の段落に「ベッドがない」という否定文があるが、これは構造上は「～たばかり」の文の主題の難民キャンプについての否定文ではない。しかし、「～たばかり」の後続文脈を見ると、医療テントの描写

ー「ベッドがない」に代表される衰弱した難民の状況等ーを通じて「三週間前にできたばかり」のキャンプの未整備状態に対する著者の否定的評価が表されているものとして仮説が妥当する。

同様に文脈内に否定的評価を見る用例として他に50、207、213がある。

はじめに、用例50；

その長崎に住む「中田」から、十日ほど前の早朝、電話があった。女学生時代のクラスメートの、死を告げる電話である。電話をもらった前日、息をひきとったという。去年（1988年）の九月、長崎に帰郷した折りに見舞った、クラスメートである。病院への見舞いも「中田」が連れていってくれた。その時クラスメートは、手術したばかりだった。色白のほほに血の気がのぼり、元気そうにみえた。来年はまたみんなで、平和祈念祭にいきましょう、と私はいった。彼女はにこにこ笑って、行こうね、といった。

を見てみると、ここでは、「～たばかり」の後に否定形や否定的評価は見られない。しかし、この文脈では修辞法上、序次法（中村明1991:98-101）でならば本来「～たばかり」に後続して否定的評価になるべき文章が冒頭に置かれ、時間的順序が逆転した形になっており、冒頭に執筆時点で最も近いクラスメートの死という事実を配置することで過去の事実を回想として明確に浮かび上がらせ、ここから、回想時点（＝「～たばかり」の時点）ではプラス評価と解釈される内容（術後の経過や来年の約束）が死によって実現不可能となったという否定的評価（＝「術後ノ経過ガ順調ソウデアッタノニ死ンデシマッタ」「約束ガ実現デキナクナッタ」）が含意されてくるのである。

次の用例213；

ある日、農協にあって、昔の鉱害の記録をみせてもらっていた。なにげなく、交通が不便で困っていることを口にだすと、

「わしのとこに来んですか」

と三五、六歳の職員がいてくれたのだった。井田裕夫さんだった。

農協からの細い道を歩いて彼の家に向かうときでも、ほくは半信半疑だった。彼とはその日はじめて会ったばかりである。まったくの初対面の男を、井田さんは居候にしたのである。

も、修辞法のために文脈からの考察や類推が必要な例として挙げられるであろう。213は、修辞法として断叙法（中村明1991：199-202）が用いられ

ているため、「農協からの…」以下の文相互の関係が解りにくいが、著者の事態に対する認識を考えてみると、まず「半信半疑」という心情を提示し、後続部分は、例えば、〈[ナゼナラ]「その日はじめて会ったばかりである」[ノニ]「まったく初対面の男を…居候にした」[カラダ]〉または〈「その日はじめて会ったばかりである」「まったく初対面の男」[ナノニ]「…居候にした」[カラダ]〉という形で把握できるであろう。この場合、前述の「のに」による逆接型となり、前の「半信半疑」が話者の否定的評価の表現として成立することになる。あるいは、最終文末の「～のである」に着目すれば、〈「…半信半疑だった」[ナゼナラ]「…その日はじめて会ったばかりである」[カラダ]〉とした上で、この因果関係をあらためて認定し表出する文として〈[ツマリ]「まったく初対面の男を…居候にしたのである」〉が後続する³⁾とも考えられる。

213はこのように二様の解釈が可能であるが、いずれにせよ「～たばかり」に後続する「まったく初対面の男を…居候にした」ということが「半信半疑」という否定的評価で先行的に捉えられていることが解る。

また、用例207；

採用されることになった。いなかからでてきたばかりだったので「使いやすい」と経営者におもわれたのであろう。朝九時から五時半まで。賃金は七千円。職安の紹介状にはそう書かれていたが、面接では場合によっては八時まででも、そして賃金は、二ヶ月の試用期間中は六千円、といわれた。それでもいいことにした。

では「～たばかり」に後続する「『使いやすい』と経営者に思われたのであろう」という表現だけを見ると「経営者に気に入られた」という解釈も可能であるが、後続文脈を見ると、職安の紹介状よりも不利な条件を提示され、それを受け入れたことが書かれている。従って、この「使いやすい」は実は「不利な条件でも言うことに従う／言いなりになる」という、著者にとっての否定的評価として捉えられる。

最後に、文脈と言うより共起する名詞の前提的特徴（國廣1982：75-78）の反映によるケースとして用例191が、また、先行する誘導成分に影響を受けているケースとして用例287がある。

まず、用例191；

七歳のアルベール君は、キャンプにきたばかりだった。素直な子で、育ちのよさが分かる。反政府軍が進攻してきた日、役人の父親に連れられ、

ルワンダ南部から家族全員で満員のトラックに乗り込んだ。途中でトイレ停車があり、道路わきの茂みでみんなとおしっこした。終わって道路に戻ったら、トラックは行ってしまっていた。

は、「～たばかり」に否定的評価が後続せず、逆に話題の人物＝アルベール君を誉める表現が後続し、その後に彼が（難民）キャンプに来た経緯が語られる。表面的にはこの「～たばかり」は単に〈時間的直後〉の意味と見られるが、その場合は「ところ」と互換可能なはずである。にもかかわらず、インフォーマント全員が「ばかり」を選んだということは、この「～たばかり」には他の意義特徴があることになる。この場合は、「～たばかり」と共起（先行）している「キャンプ」という名詞の前提的特徴である「仮設の居住空間（＝自分の本当の住処ではない）」という意味が反映することによって「きたばかりデ／ダカラ、マダ慣レテイナイ／馴染メナイ」という否定的評価が含意されると考えられ、この前提的特徴の反映を考えるとによって先の仮説が当てはまるものとなる。

次に、用例287；

「貸すも何も、僕だっつき合っただけだから」

は、知人のシナリオライターを貸して欲しいと依頼された主人公が先輩に対して答える場面であるが、この発話の中の「Xも何も～」という表現は、一般にその後続部分でXに対する否定あるいはXの不可能性を提示する誘導成分としての機能を有することから、この文では、例えば「…つき合っただけだから、貸すナドト言エル訳ガナイ」等の否定的評価の発言が省略されていると考えることができる。従って、287も「～たばかり」に否定的評価が後続すると認定することができ、以上から、本節で考察した6例についても仮説の妥当性が立証される。

4.4 分析(4)－意義特徴の変容－

本節では、残りの4例（150、181、197、289）を検討する。これらは、見かけ上前節までのような諸要素が認められず、150、181はむしろプラス状態の表現が後続しており、197は事実描写、289は助言となっている。

では、これらの諸例から、先の仮説は棄却されるのであろうか。以下では、このことを検証するために角度を変えて分析を行うことにする。

4.4.1 分析(4)-1-部分転用による否定的評価の抑圧－

まず、一つの可能性として部分転用による意義特徴の抑圧が考えられる。前稿及び本稿前節までの分析により、「～たばかり」の、①〈時間的直後〉、②前記①に於いて生じた状態が続いているという〈状態継続〉、③〈形式的・意味的否定表現の後続〉という三つの意義特徴が一応検証されている。これらのうち③が該当しないと見られる場合には、深層では①～③を有しているが、部分転用によって①または②が用いられ③が抑圧されると考えられる。國廣（1982：114-116）によれば「部分転用では抑圧された部分は完全に姿を消している」とされており、否定的評価が認められない現象は、これにより説明される可能性が生じる。

上記諸例のうち用例197；

妻の昌子さんとは一年前に結婚したばかりで、ナイロビの下町の小さなアパートに住んでいる。…

を見ると、「結婚したばかり」に「一年前に」という副詞句が前接している。〈時間的直後〉の観点からは「一年前」は最早直後と言えないが、著者はこの話題の夫婦の状況を結婚後一年経っても新婚同様の状態と認め、「一年前に」という副詞句によって意義素②〈状態継続〉を強調した結果、他の意義素が抑圧されて否定的表現が後続しなくなったと分析することができる。従って、この用例には深層に意義素③の潜在を認めることが可能であり、前記仮説に背馳しない。

しかし、他の用例は、部分転用を考えてもその構造や指標が不分明で、説明が困難であり、異なった角度からの分析が必要とされる。

4.4.2 分析(4)-2-否定的評価の再検討－

前節までで、当初仮説が150、181、289の3例については検証されないことが判明した。そこで、本節では仮説自体を見直すという方法を採用ことにし、上記3例の現象をも包摂可能な形でこの仮説、特に「否定的評価」の内実を拡張あるいは縮小することを試みる。

まず、用例150；

それがたった十名なんです。できたばかりだったから、学生より先生の方が数が多かった。だから、学生は大切にされて、勉学の環境は実に恵まれていました。

は、151、153と同様UCSD（カリフォルニア大学サンディエゴ校）とい

う大学の説明であるが、「～たばかり」には「学生より先生のほうが数が多かった」という事実文、さらにプラス評価を表す内容が続いており、ここに否定的評価を見出すことは難しい。しかし、見方を変えると、「学生より先生のほうが数が多」という事態は、我々が一般的に大学に対して抱く前提（＝学生数が教員数より多い）に反するもの／異なるものとして考えることができる。そこで、このような記述のあり方を当面「背景的／文脈的前提に対する対立関係」と規定し、これを前項までの「否定的評価」という概念の中にも含めることによって概念の内包を拡張し、この規定が残る2例にも妥当するかどうかを検討することにする。

次の用例181；

黒田は東京美術学校の教授として洋画壇の頂点にあった。また、太田はフランスから帰国したばかりで、後期印象派のスタイルを学んできた画家として批評家にも注目されていた。

では、「～たばかり」に「批評家にも注目されていた」という、これもむしろプラス評価の内容が続く。これに関しては日本美術史の知識に基づいて論を進めると、明治末期に印象派の技法は既に日本画壇に紹介されていたが、大正期に入るとここで話題となっている太田（喜二郎）らによって後期印象派の技法が導入された。つまり、彼（ら）以前には日本に後期印象派の技法に通じた画家はいなかったということであり、その意味で「注目された」のであるが、これは裏から言えば、先行する明治期洋画壇の状況に対してそれまではなかった／異質なもの（＝画風）が出現したということであり、ここから考えると、「～たばかり」の後続部分「後期印象派のスタイルを学んできた」を上述の「背景的／文脈的前提に対する対立関係」－この場合には「対立」ということばが強すぎる嫌いはあるが－という枠組みに含めて考えることができる。

最後の用例289；

「…円ちゃんは自分とこのプロと局の間で気の毒な板ばさみだから、俺も同情はするが、新シリーズにはついていけないな。他に行くつもりだよ。平ちゃんは映画部に来たばかりだし、円ちゃんに拾われた身だからしばらくつき合って、せめて妙な方向にいくのを食いとめるんだな」

は、特撮プロダクションのスタッフが新番組の内容をめぐる議論する場面であるが、この発言中の「～たばかり」には「…だし、円ちゃんに拾われた身だ」という並立部が後続し、この「映画部に来たばかり」と「円ち

ゃんに拾われた身」の両者を理由として「しばらくつき合って、せめて妙な方向にいくのを食いとめるんだな」という助言が続く。この文脈では「…新シリーズにはついていけない。他に行くつもりだよ」という先行発言があることに注目してみたい。この先行発言は、最初の発話時点での発話者の意向を表している。それに対し、「～たばかり」の文（特に後続する助言）は相手である「平ちゃん」に向けられており、上述の様にその内容は新シリーズ（あるいは円ちゃん）につき合っていくことを勧めている。つまり、発話者は、自分の意向（＝新シリーズからの離脱）を表明した後、その意向と相反する行動を助言として相手に提示している。従って、この289も先行発言を前提とすることによって「～たばかり」の後続部分を「背景的／文脈的前提に対する対立関係」と読みとることが可能である。⁴⁾

以上の分析から、当初仮説「『～たばかり』には何らかの否定的評価が後続する」は、「何らかの否定的評価」という部分に上述のような対立的・異質な内容をも含めて内包を拡張することにより、今回抽出した39例全てに於いて検証され、妥当性を確保したとすることができる。

5. まとめ—結論と今後の課題

以上の諸分析から当初仮説が検証され、従って、前稿と本稿に共通する根本的な問題であった「～たばかり」の意義素を構成する意義特徴は、

- ①ある動作・作用などが終結した直後という〈時間的直後〉
- ②上記の①に於ける動作・作用が完結した直後に生じた状態が何らかの形で継続しているという〈状態継続〉
- ③上記の動作・作用の主体あるいは対象とそれに関わる人や事柄に関して何らかの否定的評価が形式的・意味的に後続するという〈否定的評価の後続〉

の三つにまとめられる。（この場合、前の「背景的／文脈的前提に対する対立関係」は、意義特徴③の「意味的に後続する」という部分に含めてある。）これらをもって國廣氏よりご指摘を頂戴した問題に関しては、ひとまず結論を得たこととしたいが、しかし、これに関連してなお残る問題があるので、それらについてふれておく。

それは、前述の「背景的／文脈的前提に対する対立関係」というものの「～たばかり」の意義特徴の中での位置付け、ということである。今回は「否定的評価」という意義特徴の中に含めた形で論じたが、それは、既に見た

様にこの「背景的／文脈的前提に対する対立関係」が「～たばかり」に常に後続するというよりは、「否定的評価」のバリエーションとしてそれが明示的に現れにくいところに現れると考えられるからである。そして、これまでの用例から見る限り「否定的評価」という意義特徴と緩やかな連続性を保ちながらもそれ自体が第四の意義特徴として措定され得るとは考えにくく－勿論これにはなお異なった判断の可能性もあるが－、この「背景的／文脈的前提に対する対立関係」は、独立した意義特徴とするにはなお解釈の幅を残している要素として、ここでは國廣(1982: 54-55)の言う「意義素の外縁」と捉えることが適当であると考えている。

また、教材化に於ける問題としては、3.1で述べた様に、今回「～たばかり」が適合すると判定された141例中実に102例(72.3%)が「～たばかり」の[名詞](名詞修飾)の形であり、また分析対象の39例中8例(20.5%)が逆接の接続助詞を伴う形であったにもかかわらず、2章で挙げた教材の例文には、IAIJの1例を除き名詞修飾型も逆接接続型も現れていない。全数301例では説得力に乏しいとは思われるが、教材化に際して説明や例文を提示する場合、このような構造的特徴を持つものを含めて提示する必要があるのではないかと筆者は考える。⁵⁾

しかしながら、上記二つの問題に対してさらに検討を加えることは、問いの立て方の適否も含めて差し当たり他日の機会にゆずることとしたい。

注：

- 1) 本稿では「～たところ」と「～たばかり」を金田一(1955)に従って共にアスペクト(状態相・既然態)として扱っているが、これに対して、寺村(1984: 292)は金田一のこの分析を批判しつつ「～ところ」をムードの形式として分類し、アスペクトはそれに前接する動詞の形であることを主張している。但し、「～ばかり」についてはこのような批判は展開していない。この問題は今後さらに検討される必要があるが、本稿ではこの議論の当否には立ち入らないことにする。
- 2) 当時東京大学文学部教授で、現在は神奈川大学外国語学部教授。
- 3) このような「のだ」の用法に関しては、松岡(1987)及び松岡(1993)を参照のこと。
- 4) 但し、この用例に関しては、助言の部分に「せめて」という、不充分であるが我慢／妥協せざるを得ない、といったマイナスの含意を伴う副

詞が後続する点に着目して、これを以て「否定的評価の後続」とする解釈も考えられる。

- 5) これに関して、例文集であるが宮原 (1996: 357) は「～たばかり」の例を三つ挙げており、うち二例が「～たばかりの [名詞]」の形(「覚えたばかりの語句」「日本に来たばかりのころ」となっていて、本稿で抽出した用例の実態にはほぼ合致するものとなっている。

参考文献：

- 川越菜穂子 (1995) 「トコロダとバカリダー出来事の時間的把握」 宮島達夫・仁田義雄編 『日本語類義表現の文法 (上) 単文編』 pp.204-209 くろしお出版
- 金田一春彦 (1955) 「日本語動詞のテンスとアスペクト」 金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』 pp.27-61 むぎ書房
- 國廣哲彌 (1982) 『意味論の方法』 大修館書店
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
- 酒入郁子・佐藤由紀子・桜木紀子・中村貴美子・中村壽子・山田あき子 (1991) 『外国人が日本語教師によくする100の質問』 バベル・プレス
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 くろしお出版
- 中村 明 (1991) 『日本語レトリックの体系—文体のなかにある表現技法のひろがり—』 岩波書店
- 日本語教育誤用例研究会 (1997) 『類似表現の使い分けと指導法』 アルク
- 松岡 弘 (1987) 「『のだ』の文・『わけだ』の文に関する一考察」 『言語文化』 vol.24 pp.3-19 一橋大学語学研究室
- 松岡 弘 (1993) 「再説—『のだ』の文・『わけだ』の文」 『言語文化』 vol.30 pp.54-74 一橋大学語学研究室
- 宮原 彬 (1996) 『外国人学生が日本語で作文を書くための用例集 (初級・中級用)』 凡人社
- NAKAMURA, Shigeho (1990) “On the Japanese Aspects ‘-tatokoro’ and ‘-tabakari’ -from a semantic point of view-” in “*Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*” vol.31, No.1 December 1990, Hitotsubashi Academy, Hitotsubashi University pp.1-7

用例原典（副題省略）

浅田次郎（1993）『プリズンホテル』徳間書店（プ）／阿部謹也（1989）『北の街にて』筑摩書房（北）／池田忍（1998）『日本絵画の女性像』筑摩書房（日）／大沢周子（1989）『バイリンガル・ファミリー』筑摩書房（バイ）／景山民夫（1990）『トラブル・バスター』角川書店（ト）／景山民夫（1991）『ガラスの遊園地』講談社（ガ）／景山民夫（1992）『東京ナイトクラブ』角川書店（東）／景山民夫（1996）『湘南ラブソディエー』角川書店（湘）／香咲弥須子（1989）『彼女のライダース・シック』角川書店（彼）／香咲弥須子（1992）『瑠璃色の時間』角川書店（瑠）／勝部真長（1987）『青春の和辻哲郎』中央公論社（青）／鎌田慧（1992）『ほくが世の中に学んだこと』筑摩書房（ほ）／倉橋由美子（1988）『スマキストQの冒険』講談社（Q）／佐江衆一（1986）『横浜ストリートライフ』新潮社（横）／左近司祥子（1998）『哲学する猫』小学館（哲）／実相時昭雄（1991）『星の林に月の舟』筑摩書房（星）／城山三郎（1997）『わしの眼は十年先が見える』新潮社（わ）／新潮社編（1990）『私の昭和』新潮社（昭）／立花隆・利根川進（1997）『精神と物質』文藝春秋社（精）／富澤一誠（1988）『新宿ルイード物語』講談社（新）／西部邁（1985）『蟹気楼の中へ』中央公論社（蟹）／芳賀八城（1997）『イタリア生活あるでんて』KKベストセラーズ（イ）／林真理子（1991）『花より結婚きびダンゴ』角川書店（花）／松本仁一（1996）『アフリカを食べる』朝日新聞社（食）／松本仁一（1997）『アフリカで寝る』朝日新聞社（寝）／村上春樹（1986）『カンガルー日和』講談社（カ）／山崎武也（1995）『バカな上司につける薬』三笠書房（バ）

〔謝辞〕

本稿執筆に当たり、前稿刊行時に貴重なご指摘を賜った國廣哲彌先生と原稿を閲読して下さった田中晴美氏、そして適合性調査にご協力を頂いたインフォーマントの方々に厚くお礼申し上げます。

Re-examination of -TA BAKARI:

From a semantic point of view

NAKAMURA, Shigeho

In this paper, the author re-analyzes the semantic features in the sememe of the Japanese aspectual expression -TA BAKARI, using the methodology for semantic analysis in Kunihiro (1982).

As a result, a third semantic feature ⟨negative evaluation after -TA BAKARI⟩ is discovered, in addition to the two semantic features ⟨immediately after⟩ and ⟨continuation/duration of condition⟩ presented in Nakamura (1990). However, this new semantic feature includes a fuzzy element in its connotation, and needs much further investigation.

In addition, it is found that 70% of occurrences of -TA BAKARI are in the structure ⟨-TA BAKARI NO + noun⟩ and 6% in a structure with a disjunctive coordinate conjunction. On the basis of this data, it seems necessary to rewrite grammatical explanations and examples in Japanese textbooks.